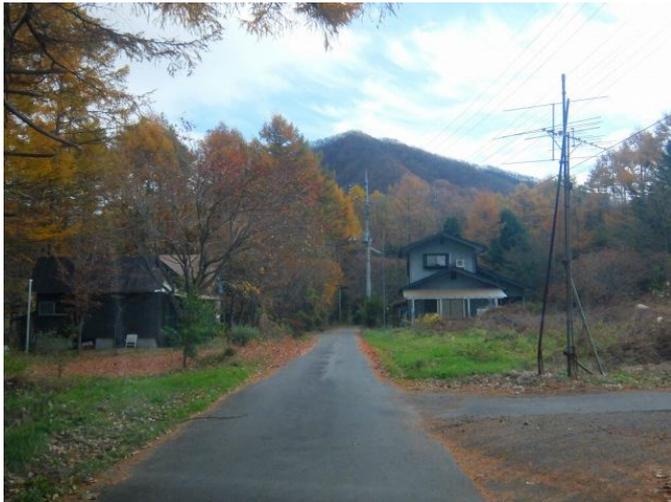


「北軽井沢のカラマツ(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

(3) 晩秋のカラマツの美

最後に長野原町道を通る。その一番奥の山小屋が私の山荘だ。ここからは鷹繁山の麓まで、ほとんどカラマツの森なので、晩秋には山が「金色の海」に浮かんだように見える。



この町道では、今までにさまざまな動物に出会った。一番回数が多いのがキツネの親子。子ギツネはいたずら者で、ベランダに置いたサンダルを、くわえて持ち去ってしまう。次がイノシシ。他にもシカ、ウサギ、それにアライグマも見ることがある。



山荘の裏庭から見たカラマツの森。日当たりの良い樹から葉が散ってゆく。檜の木の黄葉も美しいが、私は北軽井沢で一番美しいのは、11月のカラマツが色づいた時だと思う。この時期、朝は氷点下になるが、私は必ずこれを見たいと思っている。

(4) 樹冠から夜が明ける

翌朝もよく晴れていた。気温は2℃、かなり寒い。カラマツは背の高い樹なので、朝日は樹冠から少しずつ当たってくる。私はこの一瞬がとても好きだ。太陽高度が上がるにつれて、カラマツに当たる陽光は、少しずつ下がってくるのがわかる。その速度は意外に速い。これも、地球の丸さを実感できる現象の一つと言えるだろう。



太陽光の観察をしていると、上空を飛行機が通過した。飛行機雲は2列だったので、双発ジェットだろう。飛行機雲は見る見る拡大していった。飛行機雲から「背状巻雲」に変化し、最終的には細長い巻積雲になってしまった。よく晴れているが、天気は下り坂かも知れない。実際この日は、短時間ながらも雪が舞った。初雪ではなく、10月に次いで二回目の雪だった。



30分もすると、カラマツの木々に囲まれた山荘庭の地面にも陽が射すようになった。夏の間は、ほとんど陽が射さない庭も、カラマツの葉が落ちてくると、日当たりが良くなってくる。これからすっかり葉が散ると、林床には一年で一番日が当たるようになる。